

セントラルカップ 組手競技 大会規約

adidas KARATE GRAND PRIX 2023

FULLCONTACT

FIKAフルコンタクト空手 ルール改定&新階級設定

Rule

2024年1月改定

有効打

- 手による顔、首、金的、背骨以外の攻撃はすべて有効
- 攻撃に繋がる押し、掛け、崩しのみ有効
- 足による上段膝蹴り金的以外の攻撃はすべて有効
- ※上段膝蹴りは(チャンピオンクラス) ジュニア・一般男女クラスのみ有効

技あり

- 上段への蹴りがクリーンヒットした場合
- 有効打によりダメージが認められた場合
- 有効打により相手を転倒させ、無防備な相手にタイミング良く下段突きを決めた場合

一本

- 技あり2回
- ダウン (スタンディングダウン含む)が認められた場合
- 戦意喪失が認められた場合
- 有効打による負傷で審判&ドクターが試合続行不可能と判断した場合

反則行為

- 蹴り技以外による首、顔への攻撃
 - 金的、倒れた相手への攻撃、背後からの攻撃
 - 掴み、投げ、抱え込み、故意に胸を付ける行為
 - 頭部を抱え込む行為(片手・両手共に)
 - あきらかに逃げたり試合を遅延させる行為
 - 相手の有効打によって場外に出る行為
- ※1回目で忠告/2回目で減点1/3回目で減点2=反則負け
※審判が悪質と判断した場合は即刻減点1または減点2となる場合があります。

★サドンデスルール

延長戦以降はどちらかに技あり・減点1が与えられた時点で勝負が決着する

★マストシステム

最終延長戦の判定はどちらかに旗が上がる(体重判定は実施しない)

セントラルカップ 防具規定

●各自用意 ○主催者用意 △任意着用 ー着用なし

防具	クラス	男子					女子						
		幼年	小学生	中学生	一般(初級 中級クラス)	一般(上級 クラス)	マスターズ	幼年	小学生	中学生	一般(初級 中級クラス)	一般(上級 クラス)	マスターズ
マウスピース		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
拳サポーター(布製)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
パンチンググローブ		—	—	*●	*●	—	*●	—	—	*●	*●	—	*●
スネサポーター(布製)		●	●	●	●	—	●	●	●	●	●	●	●
ヒザサポーター(布製)		△	●	●	●	△	●	●	●	●	△	●	●
金的ファールカップ		●	●	●	●	●	—	—	—	—	—	—	●
ヘッドガード		●	●	●	—	—	●	●	●	—	—	—	—
心臓震盪予防用インナーチェスト		△	△	△	—	—	△	△	—	—	—	—	—
スポーツブラ		—	—	—	—	—	—	—	**●	**●	**●	**●	**●
アンダーガード		—	—	—	—	—	●	●	●	●	●	●	●
中着		白色無地限定***					白色無地限定						

- ◎ジュニアのヘッドガードは「面あり(金網・プラスチック製)」に限定する。
- ◎金的ファールカップ・アンダーガードは必ず道着の中に着用する事。
- ◎拳頭部へのテーピングは、裂傷がある場合にのみ認める。 監査チェック必要
- ◎インナーチェストは、胸部まで保護している物のみ認める。腹部まで保護しているものは認めない。またインナーチェストの下に硬質のプロテクターの使用や詰め物をして強化をしない。
- 推奨品イサミ社製(L- 8303)
- ◎スポーツブラのパッドは金属製のもの認めない。
- ◎*中学生以上の男女は、拳サポーター・パンチンググローブ、選択可能。
- ◎**中学生以上の女子のインナーチェスト・スポーツブラ、選択可能。
- ◎女子の髪留めはゴム製の物のみを認める。金属製・プラスチック製のクリップは認めない。
- ◎頭部にタオル、ハチマキ、バンダナなどの着用は認めない。(ヘッドガードのズレ防止は除外)
- ◎***一般及びマスターズ男子で、身体に傷その他がある場合は、白色無地のTシャツやラッシュガードの着用可(要申告)

■試合形式■

全クラス勝ち抜きトーナメント方式である。

審判員は3名（主審1名、副審2名）の旗判定とし赤・白の演武後に勝敗が判定される。

引き分けはない。

■クラス編成■

≪自由形クラス（創作形可能）≫

・競技の進め方

競技開始時、主審の方から見て右手に赤、左手に白が並ぶ。審判員、お互いに立礼後、白は競技場外に一度下がり、赤が演武を開始する。赤の演武終了後、赤は競技場外にさがり、白の演武となる。白が演武終了後、競技開始時の位置に立つ。その後主審の合図により旗で判定が行われる。競技者は審判員、お互いに立礼し退場する。

※同じ形を繰り返し演武してもよいし変更も可能

≪指定形クラス（正道少年型の部、正道実戦型の部、太極・平安の部）≫

・競技の進め方

競技開始時、主審の方から見て右手に赤、左手に白が並ぶ。審判員、お互いに立礼後、主審の「はじめ」の号令とともに指定型の中から演武する形（※指定型）の名前を宣言し赤白同時に演武を行う。両者演武終了後、主審の合図により旗で判定が行われる。競技者は審判員、お互いに立礼後退場する。

・指定型

指定形：正道少年型… 少年型Ⅰ、少年型Ⅱ

指定形：正道実戦型… 実戦型Ⅰ、実戦型Ⅱ

指定形：太極・平安… 太極Ⅰ、太極二段、太極下段など形名に『太極』がつくもの。または、平安Ⅰ、ピンアンその2、ピンアン三段など形名に『平安（ピンアン）』がつくもの

※同じ形を繰り返し演武してもよいし指定型の範囲で変更可能

■判定基準■

- ・良いタイミング、リズム、スピード、バランス、極め
- ・着眼及び集中力
- ・技の正確性
- ・適切な立ち方

その他にも形の完成度を総合的に見て判断される。

■減点、反則、失格行為■

試合態度が悪い、暴言を吐く、礼をしない、審判員の指示に従わなかった場合など武道教育として相応しくない行為は審判の判断により減点または失格もありうる。